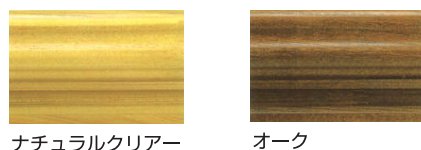
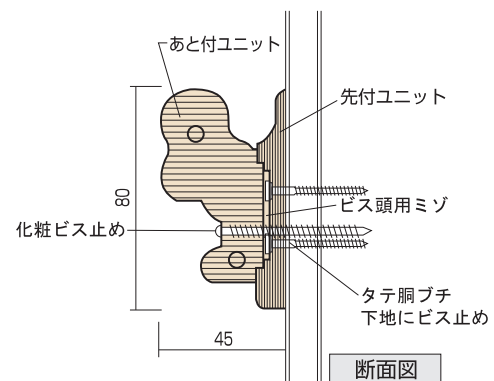
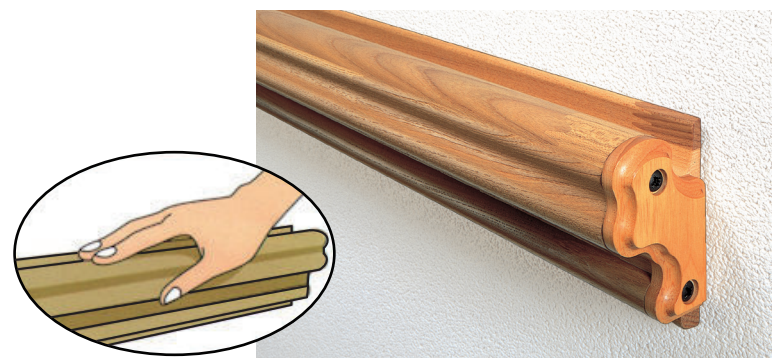


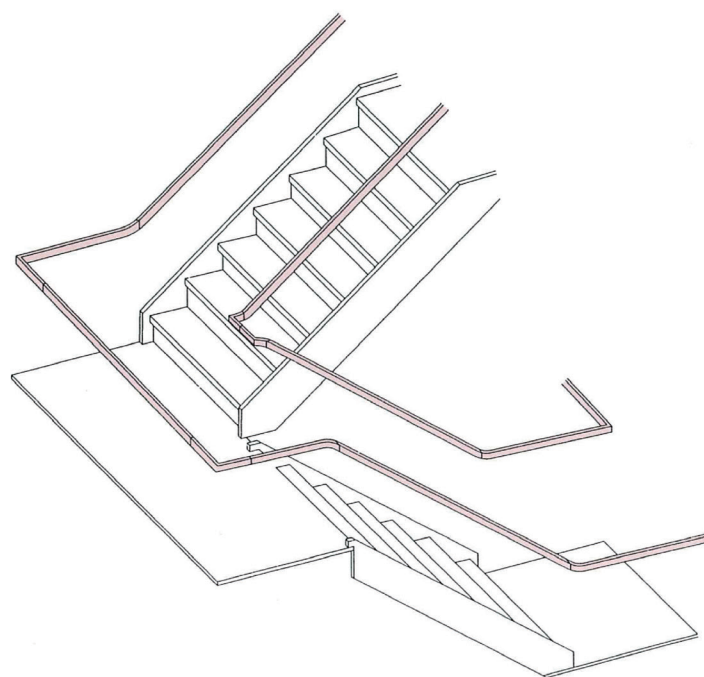
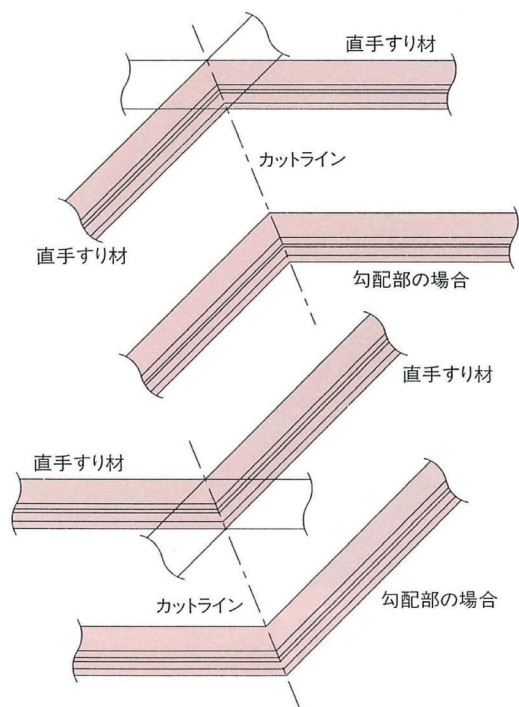
木製手すり フリーレール(あと付け手すりシステム)

手すりは、天然木集成材を使用しています。
手触りが優しく、暖かみがあり、手の握りから創られたデザインです。

壁からの出は45mm。
狭小な廊下や階段への設置には特に最適な手すりです。



どのような階段の角度やカーブにも対応でき、切れめなく取り付けができます。



■部材仕様

部材名	品番	サイズ	材質・規格	カラー
フリーレール	FR-20	L=2000	天然木集成材	ナチュラルクリアー オーク
//	FR-40	L=4000		
エンドキャップ	FR-E			

単位：mm

官公需適格組合

パネ協
日本住宅パネル工業協同組合
Japan Housing & Components Manufacturers Co-operative



パネ協は林野庁が推進する「木づかい運動」を応援します。国産材を生産地域の住宅や施設で、床、壁、棚等の仕上材や構造物を担う大断面構造用集成材として幅広く活用し、国内の森林によるCO₂吸収量の拡大に貢献しています。

本所 東京都文京区本駒込6-15-7 (六義園ビルディング) 〒113-0021 ☎ 03-3945-2311 FAX. 03-3945-3119
パネ協のホームページ <http://www.panekyo.or.jp>

※このカタログに記載しております製品の仕様、外観などは改良などの理由で予告なく変更することがあります。

2020.06

木製手すり シリーズ

木製手すりは、手触りがやさしく、
木の温もりと握りやすさ、
つたい歩きにスムーズな手すりです。



木製補助手すり
てすりむ



I型・L型 木製補助手すり
PHI・PHLシステム



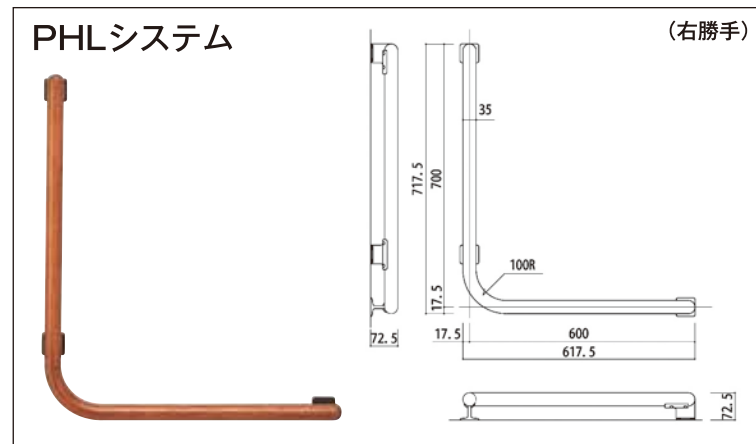
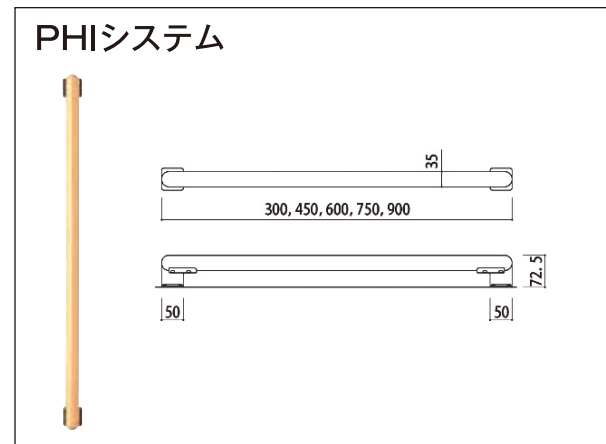
木製手すり
フリーレール



木製手すり PHI・PHLシステム(洗面・便所・玄関)



PHI・PHLシステムは、I型・L型の木製補助手すりです。手すりの直径は、お年寄りはもちろんお子様にも握りやすい細身の35mmで、手すり先端部には丸みを持たせ袖口がひっかからないようにデザインしてあります。



■部材仕様 単位: mm

部材名	品番	サイズ	材質・規格	カラー
PHIシステム	PHI-30	L=300 35φ	ニレ材またはタモ材 単板積層材(LVL)又は集成材 日本農林規格(JAS)製品	ナチュラルクリアー
	PHI-45	L=450 35φ		オーク
	PHI-60	L=600 35φ		ダークグリーン
	PHI-75	L=750 35φ		ウレタン抗菌塗装
	PHI-90	L=900 35φ		
PHLシステム	PHL-76	L=717.5×617.5 35φ 100R		
ブラケット	中間部用/端部用		亜鉛ダイカスト	パールホワイト ブロンズ



- 亜鉛ダイカスト ●焼付塗装仕上げ
- パールホワイト色 ●ブロンズ色

B 優良住宅部品認定商品の品質を保証する公的な制度でBL保険は施工瑕疵による被害も対象となる幅広く補償される保証です。

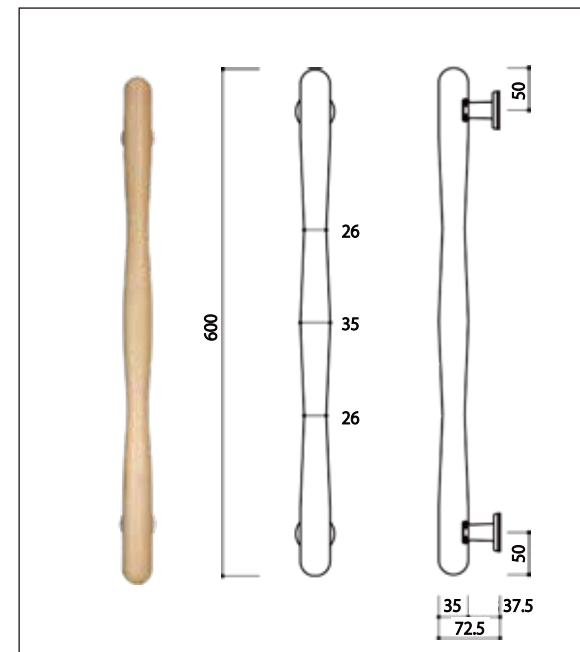
ベターリビングマーク

SIAA ISO22196 for KOHKIN SIAAマークはISO22196に適合し、抗菌製品技術協議会ガイドラインで品質管理・情報公開された製品に表示されています。

てすりむ

千葉工業大学共同研究開発商品

お年寄りが使用する手すりには、水平手すりと縦手すりがあります。これは、縦手すりです。握りやすさに加え、不安なときでも掴んでいられる、そんな手すりです。木ならではの風合いで、目に優しく心を穏やかにするデザインです。



材種 : 木製(ブナ)
塗装 : ウレタン抗菌塗装
手すり色 : 3色



実験目的

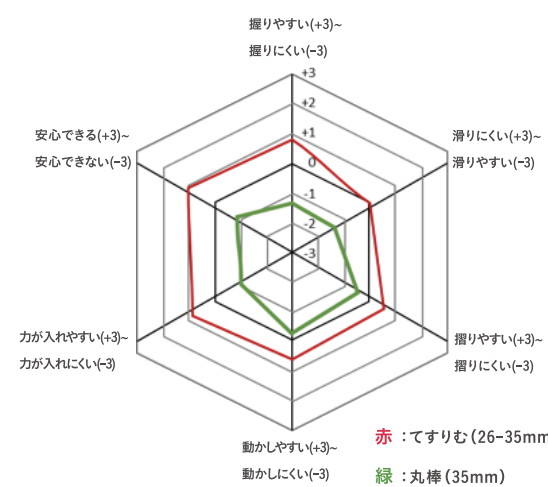
高齢化が益々進むこの日本、必ず必要となる手すり。お年寄りや身体の不自由な方々の目線で寄り添い、本当に必要とされる使いやすさと、優しいデザイン性を追求した「てすりむ」と一般の手すり「丸棒」を様々な角度から比較検証を行う。

実験条件

- ・対象:身長150cm台の女性被験者
- ・実際の手と“高齢者擬似手袋着用”(右図)による評価を行う。
- ※尚、この手袋は、お年寄りの方の触覚を感じてもらうために作られた手袋である。
- ・評価項目:「静的・動的な面」と「いざという時」の二種。



手すりの握りやすさ結果 ~高齢者擬似手袋による実験結果~



		握りやすい~ 握りにくい	滑りにくい~ 滑りやすい	握りやすい~ 握りにくい	動かしやすい~ 動かしにくい	力が入れやすい~ 力が入れにくい	安心できる~ 安心できな
てすりむ (26~35mm)	平均	0.92	0.00	0.67	0.75	0.92	1.0
	標準偏差	0.79	1.54	1.15	0.97	1.08	1.1
丸棒 (35mm)	平均	-1.25	-1.42	-0.50	-0.17	-1.00	-0.8
	標準偏差	1.06	1.44	1.31	1.70	1.48	1.4

実験結果

実験により、てすりむ (26φ~35φ) の太さが増えるタイプの総合評価は丸棒タイプ(35φ)と比較し、上図表からも分かるようにいずれの項目についても評価が高かった。てすりむの太さが増えることが、握る位置によって力が入りやすさも、安心感を強く生むことが分かった。丸棒の太さも動作補助手すりとして良いが、お年寄りや身体の不自由な方々にとって、「いざという時」にはてすりむの太さが良いと思われる。

千葉工業大学(2018)『動作補助手すりおよび歩行補助手すりにおける形状及び仕様に関する人間工学的研究』より抜粋